



地域連携推進会議(令和7年度)議事録



開催概要

- 日時:令和7年12月7日(日)13:30~15:00
- 場所:和順寮 2F 会議室
- 参加者:利用者、家族、地域関係者(民生委員等)、市担当者、基幹相談支援員、理事長・施設長



和順寮の概要・事業紹介

沿革

- 昭和45年:精神薄弱者施設として開設(定員30名)
- 平成8年:知的障害者更生施設 → 改築し定員40名の障害者支援施設へ
- 令和7年:生活介護・施設入所支援 各35名体制に

※ 建物は平成8年建築で2人部屋が多く、個室不足が課題。人員不足もあり定員を縮小。



利用者状況(R7年10月)

- 定員35名/現員34名
- 平均年齢:58.8歳(児童施設からの継続利用者が多い)
- 出身地:鈴鹿13、四日市12、亀山2、他7
- 支援区分:平均5.6(区分4以上が中心)
- 身体状況
 - 車いす4名、歩行器1名、歩行不安定(状況により車いす使用)数名
 - 食事全介助6名、どの方も部分介助、見守りが必要
 - 排泄介助が必要な方多数
 - 医療ニーズ増加、救急搬送・入院も増えている



日課・活動

- 日中活動(作業・制作・通院等)
- 入浴は一部日中に変更(高齢化・介助度上昇のため)
- 行事:吹奏楽演奏、秋まつり、ライオンズクラブ交流
- 個別活動支援:ディズニーランド、ナガシマ、鉄道博物館など
- グループレク、季節行事も多数

食事

- 栄養士・調理員が施設内で調理
- 刻み食・減塩食・ミキサー食など個別対応
- 行事食・誕生日食あり

職員体制(R7年10月)

- 総数:25名(男性9/女性16)
- 生活支援員(正規14、パート10)
- 夜勤は月4~6回
- 通院・入院・感染症対応で人員が不足することもある

職員研修

- 虐待防止研修(法人で年2回+部署で1回以上)
- BCP研修、感染症研修、腰痛予防、救急法
- 外部研修も積極的に参加

地域との関係

- 無届外出等による地域への迷惑事例の共有
- 行事でのボランティア協力
- 小中学生の見学・職業体験
- 社会福祉士・保育士実習受け入れ
- 法人ロゴを地域高校に依頼
- 災害時の二次避難所として機能

意見交換の主な内容

■ 個別支援外出の職員費用

- 職員の費用は利用者負担(実費+引率代1時間1,000円)
- グループレクは施設負担

■ 同性介助について

- 夜勤・遅番は男女配置
- 委員より:同性介助の重要性、虐待防止チェックシートの活用事例紹介
- 和順寮は昔から同性介助を意識しており評価された

■ 虐待防止チェックシート

- 年1回実施(全社協の様式)している。
- 呼称(ちゃん・くん)問題は改善傾向にあります。

■ 利用者代表の意見

- 「風呂が好き。広い。」

■ 入浴回数は？

- 法律上は週2回、和順寮は利用者の毎日入浴希望にも対応している
- 入浴は以前毎日夜→高齢化で一部日中入浴へ変更している

■ 家族からのご意見

- 姉が入所、帰省時の排泄・下着問題があります。
- 高齢化に伴う転倒・怪我の増加
- 2階→1階への居室変更など配慮に感謝しています。

■ 階段の安全性について

- 転倒ゼロではないが大きな怪我はない
- 階段が難しい人はエレベーター使用し、その他の方は職員が付き添って対応

■ 強度行動障害について

- 該当者なし
- 重度加算対象者16名(令和7年9月から算定開始)

■ 医療連携について

- 嘱託医:川村外科内科
- 精神科:ひなが心療センター、鈴鹿厚生病院、等
- 川村外科内科に入院設備がなくなり、紹介状で鈴鹿中央病院・鈴鹿回生病院へ

まとめ

和順寮の現状(高齢化・医療ニーズ増加・人員不足)、地域との連携状況、虐待防止や同性介助の取り組みなど 家族・利用者・地域からの率直な意見 が共有され、今後の支援の質向上に向けた課題と方向性が確認された。